

## 第8回 新潟市財産経営推進計画に関する有識者会議 議事要旨

1. 日時：令和3年11月4日(木) 18時30分～20時00分
2. 会場：新潟市役所、各委員拠点、(株)三菱総合研究所（WEB会議）
3. 出席者(敬称略・順不同)
  - 1) 委員

山本 康友 (座長)	東京都立大都市環境学部客員教授
足立 文	株式会社日本経済研究所本部長 (執行役員)
鷺見 英司	日本大学経済学部教授
堤 洋樹	前橋工科大学工学部准教授
藤田 美幸	新潟国際情報大学経営情報学部准教授

### 4. 議事

- 1) 第4回有識者会議（R3.3開催）提示再編案からの修正点について

#### 事務局より資料説明

- ・原則的な再編案作成手順を整えてから、新たに適用させた補正ルールや、それに伴って修正した再編案の概要
- ・再編案の表紙イメージとして、再編案作成手順を掲載

委員：資料1における「コミュニティ系施設の補正」に関して、そもそも地域コミュニティ施設の対象エリアと小学校区のエリアは違うのか。小学校が残ればコミュニティ活動の場所は残るのではないか。

事務局：「小学校もコミュニティ系施設もなくなる」という案があり、その場合、コミュニティ系施設は存続させるという補正をしている。コミュニティ協議会の多くは小学校区を基準としている。

委員：小学校統合について「受け入れのキャパシティーがないと想定される場合」とあるが、そもそも規模が小さくて統合が難しいということか。

事務局：小規模校はもともと小さく建てられていることが多く、小規模校同士の統合の場合教室が不足する場合がある。増築をしなくても統合可能な場合

のみを再編案において「統合」としている。

委員：自治協議会は郊外部になればなるほど参加される方は年配の方が多く、客観的に未来を見据える視点が不足しがちである。強い意志を持って丁寧に再編案を説明していく必要がある。

事務局：自治協議会は8区あり、それぞれ3回に分けて説明をしている。1回目は「なぜ今再編を進めないといけないのか」という点を、2回目は再編案作成手順を説明してきた。今後、12月～1月頃に3回目の説明をするが、そこでは各区の再編案を持参し説明する予定である。

委員：エビデンスベースで住民の方たちに説明していく必要がある。子どもが減って、将来、施設が使われなくなった際にどういった姿になるのかを、最新の情報に基づき具体的に説明していただきたい。説得というよりは、将来を見つめるというスタンスで説明いただきたい。

事務局：これまでの有識者会議でも、住民の皆様に対して数字を使って未来予想を示すべきということは共通した認識と理解している。承知した。

委員：小規模校同士の統合で受け入れキャパが不足する場合、小規模校でも存続させるという方針は大きな禍根を残す可能性があるため、よく考えていただきたい。また、スポーツ施設は「個人開放がメインの施設は除外」としているが、集団であろうと個人であろうと、あまりにも利用率が低い場合は廃止すべきと考える。

事務局：同一施設内で複数のアリーナがある体育館もあり、アリーナのうち1つが面貸し、1つが個人開放メインの場合、面貸ししているアリーナのみを評価している。そのため、評価されていない室がある体育館もある。一方、プールは個人利用が主で、面貸しの使われ方が少ないので、稼働率評価ができなかった。そのため、圏域Ⅱのプール施設は区に1つ残すという考えに基づき再編案を作成している。

委員：書き方を工夫していただきたい。

## 2) 改定計画（素案）について

事務局より資料説明

・前回会議で提示した計画素案から修正した箇所（長寿命化の考え方、削減目標値、経営改善の方策、PDCA サイクル）

委員：二点質問。

一点目は、施設の状況を踏まえ、分析をして何がコスト高になっているかを見ないといけないということ。資料3 p15, 16 公共施設の運営に関して、RPA のようなものはどの程度効果が見込めるのか、各施設によって費用構造も収益構造も異なる中、どういったところを意識して具体施策を導入していくのかという点が気になっている。PFI・DBO という言葉もあるが、PFI は設計・建築から始まるため、公共施設の運営部分に係るものに特化する必要があるのではないか。二点目は、これまでの市の実績を踏まえて対応施策を決めないといけないということ。指定管理制度もこれまでどういった効果を生んでいるのか、包括委託の成果はどうなっているのか等の分析をまず行ってから対策を考えるのが筋である。

委員：最も重要なのは施設再編をした先に住民にとってどのような良いことがあるかであり、そういったことを最初の方に記載いただきたい。存続する施設は維持管理をしっかりとやっていくことが前提となる。その後に、民間活力の活用による効果を示していただいた方が、市民からの理解は得られるのではないかと。また、本計画は今後運用する中で修正していく旨はしっかりと明記した方が良い。

事務局：なぜ再編が必要なのかは、公共施設基本方針編に記載している。そのため、公共施設マネジメント編における記述が相対的に弱くなっている。最終的には次世代に安心・安全に利用し続けることができることを目標としている旨は記載している。必要に応じて加筆修正したい。浮いた予算を具体的にどの分野に充てるかは記載しづらい。

委員：安心・安全はある意味当然と捉えられる可能性がある。今以上に安心・安全になるポイントが記載されていると良い。

委員：数値目標はセンセーショナルな受け止めがされる可能性がある。現状を維持するとどうなるのか、50 を超える地域の再編案が実現したらどういう状

態になるのか、残った拠点を使い地域をどうしていくのか、といった未来志向の明るいメッセージを訴えられると良い。

委員：施設をなくすというネガティブな記述に意識が向きがちだが、未来に向かって取り組んでいくということを定量的に示すことが重要である。計画を読み込んでいただけのだろうという前提は捨て、あらゆる方に理解いただけるよう、ただ記載するだけでなく丁寧に説明していく姿勢が必要である。

委員：LCC サイクル削減について、イニシャルコストは長寿命化のために上がる可能性がある。その場合は初期投資として上がっているということを踏まえて庁内で検討いただきたい。今後どうしたら良いのか、再編によって地域にとっての明るい見通しが立つ形にしてほしい。

また、経営改善7%というのは相当大きい数字である。サービス開館時間の見直しはまだ良いが、その他の施策は本当に効果的なのか疑問がある。しっかり検討して積み上げないと7%削減するのは難しいため、精査いただきたい。

事務局：コスト評価結果が平均よりも低い施設はどれであり、具体的にどう対策していくのかという点については検討がまだ追いついておらず、計画公開に間に合うか不安である。計画の見直し自体は、取り組む中でチェックをしながら積み重ねていきたい。

総務部が指定管理をはじめ運営改善を中心となって進めている。そこが他の政令市との比較において結果が悪い施設を抽出し、その所管部署に対して今年春先あたりよりレビューしてやりとりしている。その中で一定の改善対応策、結果が出てくると期待している。

### 3) その他

山本座長：最後の会議であることから、各委員より一言ずつ、全体を通してコメントいただきたい。

委員：圏域Ⅲ施設について5地区で計画づくりをした結果を踏まえ、定量的な分析をした上で市の再編案を作成することにした点については、非常に良い取り組みと感じている。これをいかにうまく地域の方に伝えるか、今後もブラッシュアップしていただけると良いと思う。

委員：昨年、市長と意見交換させていただいたが、市長のリーダーシップを期待したい。市民の生活と直接関わるため、しっかり市長から話していただくことが重要である。他の委員からいかに市民にとって良いことを伝えるかという意見があったが、この再編案を持っていき、市民と一緒に「良いこと」を考えましょう、というスタンスでいることが必要である。報道機関にもそういったことをお伝えいただきたい。待っていても良いことは起きず、自分で努力して掴んでいく必要がある。

また、新潟市は長い期間官民連携による公共施設運営の取り組みをしているため、どれくらい効果をあげてきたのか、きちんと定量的に検証することを定期的にやっていただきたい。

委員：施設評価、手順、個別施設整備まで相当大変な作業だったと思慮する。こういった取り組みは本気でないとできない。成果は他地域にも積極的に広げていただきたい。1つお願いがあり、地域に入っていくときは決まったことを持つていくのではなく、「これから決めていく」というスタンスでいただきたい。それによって次のステップにつながると思っている。

委員：委員の中で唯一新潟市民であり、自治協議会の前に委員の経験もある。客観的に皆さんと検討する機会の中で、個人的な市民の立場としても考えると「行政がやるとこうなのかな」と受け取られる可能性があると感じた。定量的な数字に基づいたものであることを示すと、納得感も得られ、未来につながる議論ができるだろう。

新潟市特有の要件があるため、他の都市や平均と合わせる必要はないと思っている。未来永劫新潟市として明るい未来が広がるよう、市民の皆さまにお示しできると良い。計画は策定して終わりにはせず、必ず実行していくのだという気概を持っていただきたい。一市民としてもお願い申し上げる。

委員：地域別実行計画の段階から素晴らしいと思っていたが、同じペースでやっていると非常に時間がかかる。今回一気に再編案をまとめて、事務局も各部局との対話も大変だったと思うが、「地域にとって良いものを作る」ということのたたき台がこの計画だと思っている。地域ごとの若干の違いはあるだろうが、その中で新しい新潟市の再編計画を作り、少しずつでも良いので着実に進むことを期待している。

事務局：全8回にわたり貴重なご意見を頂戴し感謝申し上げます。今後は部局間調

整、議会説明等を経て、パブリックコメントを実施し、年度末に成案予定である。委員の方々にはそれまでの間、お気づきの点があればいつでもご連絡いただきたい。また機会があれば先生方のご意見を頂戴したい。

以上